



TITLE:

編集後記

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記. 京都大学生涯教育学・図書館情報学研究 2004, 3: 248-248

ISSUE DATE:

2004-03-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/43842>

RIGHT:

編集後記

今回で本誌は皆さまのご支援とご協力を受けながら第3号の発行を迎え、編集部一同ますます多様で興味深い誌面づくりの責任を感じております。翻訳・講演記録や彙報をご覧いただければ、生涯教育学・図書館情報学両講座とも国際的な共同研究、とりわけアジア地域での人的交流が幅広く試みられてきたことがわかると思います。今日グローバルな情報通信技術による学習経験や知識流通の共有がすすむ一方で、その多様な地域的・歴史的な文脈に関心を払う必要性も高まっています。

先日私たちが参加した ASPBAE（アジア南太平洋成人教育協議会）のリーダーシップ研修でも、各地の若い成人教育実践家たちが極めて多様な経験を交換しながら、多くの共通する課題を見出すことができました。そこでは知識・スキル・IT 技術へのアクセスの重要性に加えて、学習者・市民が意思形成し社会的に発言・コミットしていくアドヴォカシーと参画が様々な形で焦点となっていました。本号のいくつかの論文もそうした国際的な動向に応える問題意識を共有するものであると信じます。

一方で生涯教育学・図書館情報学の研究分野は「実践」と密接にかかわる分野でありながら、冒頭エッセイで渡邊先生も提起されているようにその分析枠組みの練り上げは今後の私たちの課題といっても過言ではありません。本誌も他の学問領域や海外文献翻訳などを通じて基礎的な研究資源を蓄えながら、「借り物」ではない地道な「実践」や経験と向き合い対話するための理論のよい意見交流の場になることができることを願います。

今回は本学にセミナーで来て頂いた縁で宮坂広作先生に特別に寄稿していただき、「金銭教育論」というユニークなテーマを通じて、市民の自己教育について興味深い問題提起を受けました。その他今回も講座の諸先生方をはじめ多くのご助言と共に、研究科事務・業者のみなさまの本当に多くのお力添えで発行に漕ぎつけることができました。今後とも本誌を開かれた研究交流の場として本誌をご支援・ご活用いただければ幸いです。最後に前号に続きまして編集部側の都合で編集発行スケジュールが遅れたことを執筆者・関係者各位に深くお詫びし、次号以降の定期発行を目指します。ありがとうございました。

(2004年3月 編集委員会事務局・吉田 記)